

V. 特記事項

1. 医学部：研究医コース

科学技術立国として、量と質の高い論文数を誇っていた日本だが、2000年代前半より研究力が低下し、令和5(2023)年時点での論文数は世界5位、質の高い論文であるTOP10%については10位以下となっている。医学研究論文の数も減少傾向にあり、最近の報告では新型コロナウイルスの研究論文がG7諸国の中で最も少ないことが明らかにされた。これらの結果は日本の医学や生命科学研究の未来について深刻な懸念を示唆している。

医学や生命科学研究の発展には、研究者としての素養を身につけた医師、すなわち研究医が求められる。本学では平成26(2014)年度から研究医枠による定員2名の増員が文部科学省から認可され、さらに平成25(2015)年度には神戸大学、関西医科大学とコンソーシアムを結成し、平成28(2016)年度より本学独自の研究医コースを開設した。

令和5(2023)年度3月末で研究医コースの卒業生は19人である。卒業後、医師として臨床の医局に所属しながら研究活動を続けている者や、本学の基礎講座の教員として研究活動を続ける者もあり、本学の研究医コースの目的である基礎医学や臨床医学の研究に従事する医師の養成という目的を達成している。現在、20人の学生が研究医コースに在籍しており、近年では学術論文の作成や学術雑誌へ投稿・受理されるケースも増えてきている。これにより、本学の研究活動のみならず、日本の医学研究を支える若手研究医の育成に貢献していると考えている。研究医コースの今後の発展に向けて、さらなる充実と拡充を図っていく計画である。

2. 看護師特定行為研修課程、認定看護師教育課程

本学では特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を実践できる認定看護師を社会に送り出し看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的に、平成25(2013)年より手術看護分野の認定看護師教育課程を開講している。実務経験が5年以上の看護師が対象で、臨床経験が豊富で指導的立場の手術室看護師を受け入れている。全国で教育機関が2か所しかないことから北海道から沖縄までの全国から多くの研修生が受講している。修了生の概要は、平均年齢35.8歳、男女比は男性40%、女性60%となっている。これまでに258名が修了(令和6(2024)年5月)し、様々な地域で看護の質と手術医療の発展に成果を残している。平成29(2017)年からは看護師特定行為研修課程を開講し、手順書により一定の診療の補助を行うといった高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとなる看護師を養成している。令和3(2021)年からは実施頻度の高い特定行為について領域ごとにパッケージ化した領域別パッケージ研修を開講し、現在は「在宅・慢性期領域」「術中麻酔管理領域」「救急領域」「外科系基本領域」「集中治療領域」の5領域のパッケージ研修を開始している。これまでに47名が修了(令和6(2024)年5月)し、内部受講者23%、外部受講者77%と外部からの受講者が多く医療系大学の使命である地域医療の発展に貢献している。領域別では慢性期の病院及び訪問看護ステーションに所属している看護師が48%を占めており、地域医療を担う看護師の受講が多い傾向となっている。修了生の活躍により、急性期医療のみならず慢性・在宅医療など様々な施設でチーム医療の推進と医療職の働き方改革を進めるためのタスクシフト/タスクシェアに貢献している。